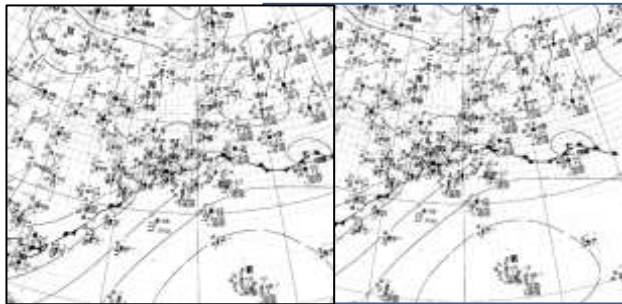


1991年 6月22日～24日 不安定（停滞前線近傍）

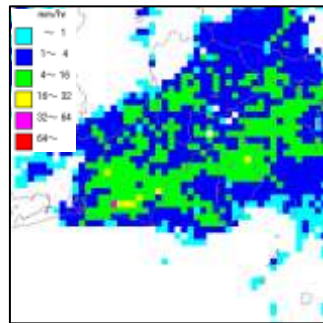
1. 気象経過

22日から25日にかけて、前線が静岡県南岸に停滞していた。このため大気の状態が不安定となり、断続的に激しい雨が続いた。22日午後から23日午前にかけては、停滞前線上に発生した低気圧が南岸を東進していき、24日には停滞前線が内陸まで北上したため、日雨量が100mmを超える大雨となった。浜松測候所では23日1時までの3時間雨量が76mmを観測し、現在の市町警報基準である70mmを超え、浸水害が発生している。また、24日は、前線の北上により山地中心に20mm前後の強い雨が降り続き、大雨となった。



1991年6月23日9時
地上天気図

6月24日9時
地上天気図



1991年6月22日23時38分
気象レーダー

2. 大雨の特徴

西南西—東北東にのびた停滞前線の形状に沿い、線状分布に強雨帯が発生し大雨となった。アメダス雨量では分かりにくい、解析雨量分布では、その形状が明瞭である。高気圧の縁辺を流れる暖かく湿った風が、前線の活動を活発にさせている。浜松(防衛省)高度1500m付近では、23日9時南西の風、風速6m/s、相当温位*340K、24日9時南西の風、風速12m/s、相当温位350Kの非常に暖かく湿った風が流入していた。

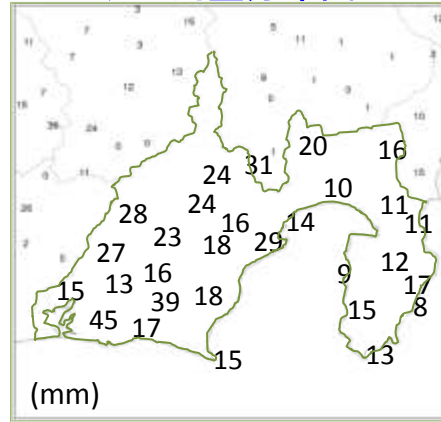
※相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となる。単位は絶対温度(K:ケルビン)

3. 被害概要

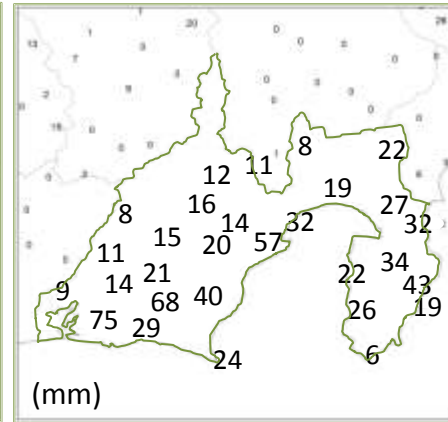
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 不明 者 (人)	重傷 者 (人)	軽傷 者 (人)	道路 閉鎖 (カ所)	橋 閉鎖 (カ所)	河川 閉鎖 (カ所)	砂防 閉鎖 (カ所)	鉄道 不通 (カ所)
全県	7	52	0	0	0	0	0	0	30	2	36	1	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
西部	7	52	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成3年における災害の状況等による

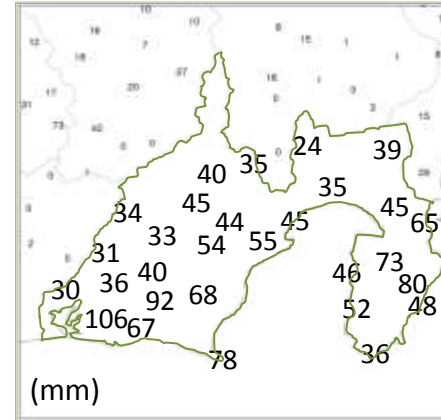
4. アメダス雨量分布図



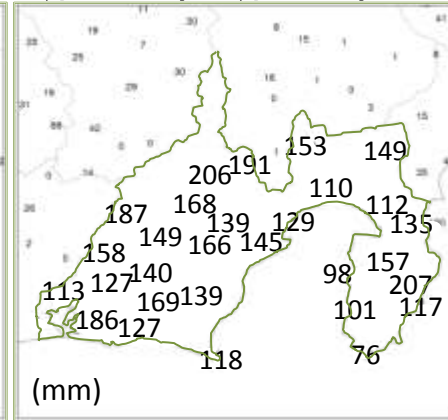
アメダス1時間雨量(正時毎)
6月22～24日における最大値



アメダス3時間雨量(正時毎)
6月22日23時～6月23日1時

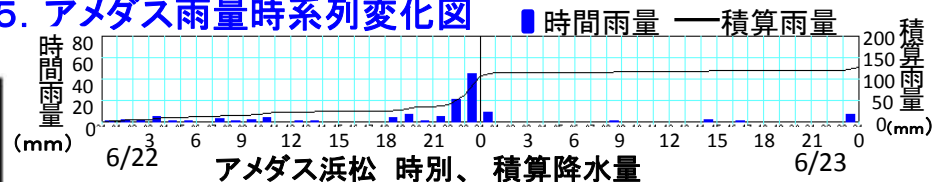


アメダス日雨量
6月22日

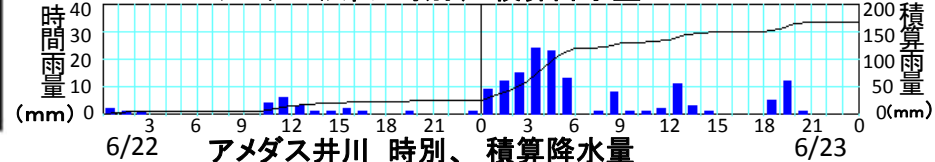


アメダス 3日間雨量
6月22日～24日

5. アメダス雨量時系列変化図



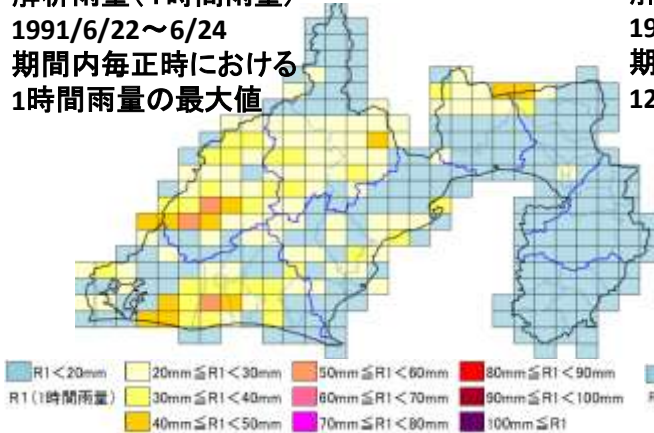
アメダス浜松 時別、積算降水量



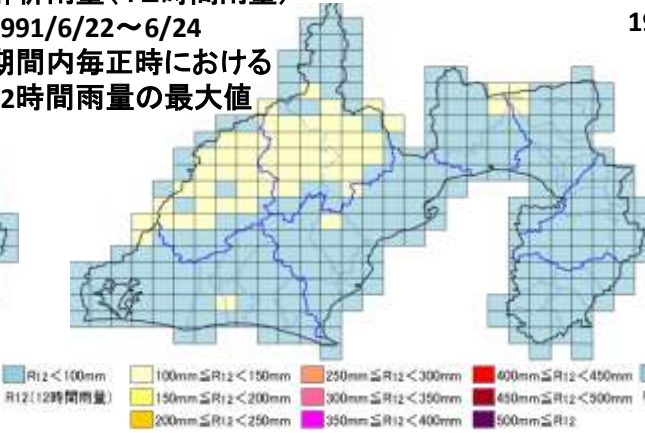
アメダス井川 時別、積算降水量

6. 解析雨量分布図

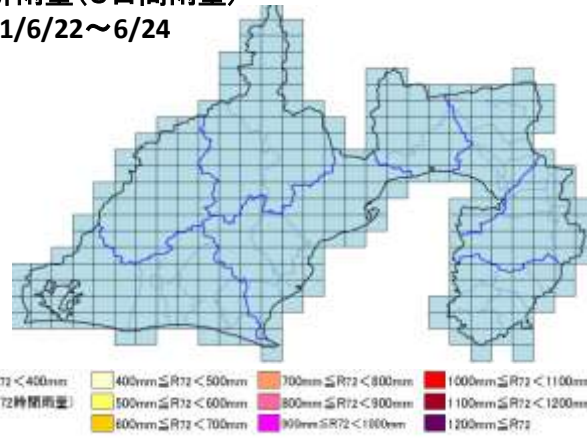
解析雨量(1時間雨量)
1991/6/22~6/24
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



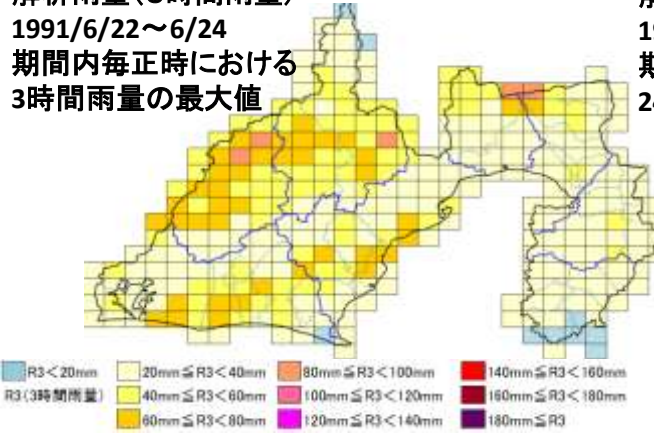
解析雨量(12時間雨量)
1991/6/22~6/24
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
1991/6/22~6/24



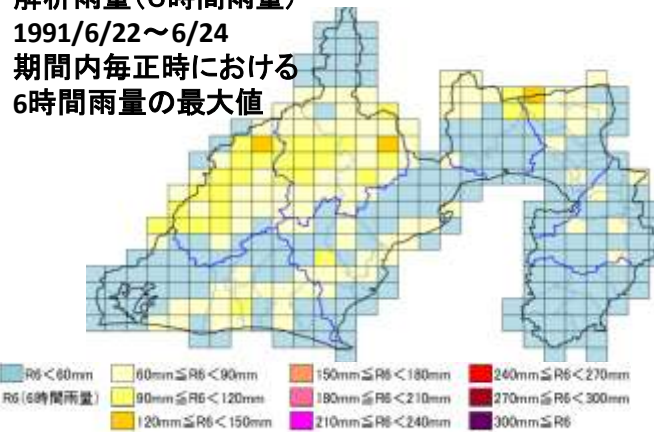
解析雨量(3時間雨量)
1991/6/22~6/24
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



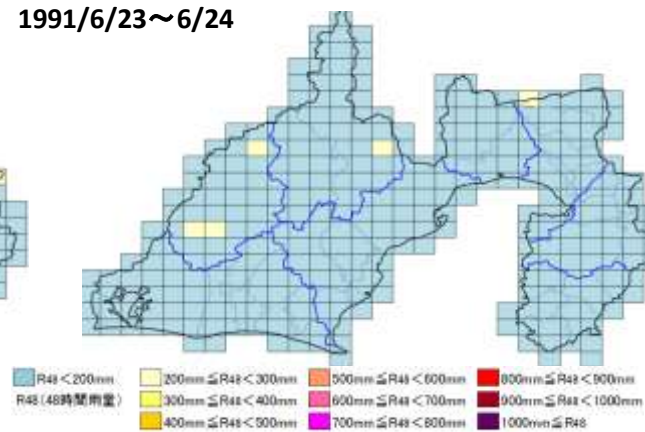
解析雨量(24時間雨量)
1991/6/22~6/24
期間内毎正時における
24時間雨量の最大値



解析雨量(6時間雨量)
1991/6/22~6/24
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
1991/6/23~6/24



7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



被害数は、静岡県平成3年における災害の状況等による

解析雨量と浸水被害分布図からわかる大雨の特徴

西部の平地と山地の線状分布の強雨域は、異なる日時に発生している(平地では22日夜から23日明け方にかけて、山地では24日)。また、高度1500~2000m付近で強風となると富士山周辺でも強雨となる。